

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2022009

プロジェクト名 嶺岡牧をまるごと味わうプロジェクト

プロジェクトの概要

千葉県鴨川市嶺岡牧地域では、地域活動の主体となるカタリストが周辺住民の関心を育み、地域再生を目指す活動が継続されている。現在、鴨川は人口減少、高齢化が著しく消滅自治体の危機が迫っている。そこで地域と大学の連携（域学連携）から、地域を活気づけるワークショップを計画・実施することで、新たなコミュニケーションの可能性の探究・地域住民と学生の関係性を構築し、交流をはかることを目的とする。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトは、地域と大学が行き来をすることで相互の理解を深め、連携する二つの取り組みを実施した。まず地域住民に大学に来てもらい、嶺岡牧地域を表す三つのテーマである食事・酪農・製乳業の視点から課題抽出を行った。そこから景観の再生方法について知見を得ることができた。例えば、地域の交流の場とされていた酪農のさと、製乳業跡地を物産センターにするなど、特徴に応じた活用を行い、かつての景観を取り戻す交流の拠点として利用することなどが提案された。もう一つの取り組みとして、嶺岡牧地域にある伝統的農家建築に地域住民と学生が訪問し、「チッコカタメターノ」を用いたワークショップが開催された。チッコカタメターノとは、売れない初乳を「捨てるのは勿体ない」と食べるようになった地域固有の食である。学生がチッコカタメターノ料理を調理し、全員で食べ、地域住民はその思い出について語った。この取り組みから地域住民と学生の交流をはかるとともにこのワークショップの実施回数を増やすことができた。またチッコカタメターノにまつわる語りにより、様々な料理に応用でき、多様な食べ方が可能であることが抽出された。チッコカタメターノは、乳等省令により地域住民ですら頻繁に食べることはできないため、参加者にとっても貴重な経験となった。現在、地域企業と連携したチッコカタメターノ試食会が行われるなど、資源化に向け動きが活発となっている。プロジェクトを進めていくにあたり、実施が可能であるか古民家に許可を得ること、地域住民の参加を促すことなど、現地のカタリストと打ち合わせを重ねた。嶺岡牧をまるごと味わうプロジェクトを通じて地域と大学の新たな関係性を築き、地域再生を促進する取り組みとして後世に継承することが重要であることがわかった。

活動写真

